２０１１年（平成２３年）１０月１０日　月曜日

デーリー東北新聞　掲載

打線活発 光星快勝

10安打8点 石巻工下す

2回戦

光　星2301000018
石巻工（宮城）0000100001

（七回コールド）

（光）金沢－田村
（石）荒川、阿部剛、三浦－阿部翔人

▽本塁打　北條（光）
▽三塁打　奥津（石）▽二塁打　武田、金沢（光）
▽暴投　金沢2（光）荒川、阿部剛（石）
▽試合時間　2時間7分

【評】光星は打線がかみ合い10安打8点で快勝。初回は1死一、三塁から、北條の中前適時打と相手の暴投で2点を先制。二回は金沢の左中間二塁打と村瀬の中前適時打で2点を追加。三回は北條の左越えソロ本塁打などで3点を追加し、序盤で試合の大勢を決めた。先発金沢は制球に苦しんだ。五回は三塁打と暴投で1点を与えたが、大量点に守られて七回を投げ抜き11奪三振をマークした。

【光星－石巻工】11奪三振1失点で7回を投げ抜いた光星の主戦金沢湧紀＝八橋球場

光星 エース金沢

ボール先行「びびった」

白球

光星の背番号1金沢湧紀は、前エース秋田敦良が準優勝した甲子園で使ったグラブとスパイクを身に着け、先発マウンドに立った。7回1失点11奪三振と数字上は好投だが、実際はボールが先行し、不安定な投球が続いた。「東北大会に）びびっていた」。心の弱さが起因していた。

立ち上がりからコースぎりぎりを狙った。なかなかストライクが入らなかった。「練習試合で直球を打たれたのが頭にあった」。初回に三つ目の四球を出したところで、マウンドに駆け寄った捕手田村龍弘から「真ん中に来い」と叱咤（しった）された。

その後は、三、四回と6者連続三振を取ったが、五回に三塁打を浴び、暴投で1点を献上。打撃では2安打3打点と大活躍だったが「緊張はぬぐれなかった」。最後まで本来の球威とキレは戻らなかった。

この日は、秋田ら3年生もスタンドから声援を送った。秋田は「金沢は真面目で、ずっと自分の練習に付き合ってくれた。だからグラブとスパイクを渡した。一緒に（光星エースとしての）〝気持ち〟もあげた」と新エースの蓄起に期待を寄せた。

金沢は「（秋田のように）強気にどんどん押していく、光星らしいエースになりたい」と、心の弱さからの脱却を誓った。

（出川しのぶ）

次につながる1本

○…光星4番の北條史也は三回、初球の高めに入った直球を左翼スタンドに豪快にたたき込んだ。公式戦3本目、高校通算9本目の本塁打に「次につながる1本」と笑みを浮かべた。

「初球から振っていこうと思っていた」と北條。この日は1打席目に一発を予感させるような特大ファウルをレフト寄りの三塁側スタンドに放っていた。

県大会4試合は16打数5安打1打点で、本人は「当たっていなかった」と納得していなかった。だが、この日の東北大会初戦では2安打2打点と活躍し「やってきたことが結果になった」と、満足そうだった。

光　星8－1石巻工

【光　星】	打	安	点	振	球
⑨	7	2	0	1	0
⑦	4	1	0	0	0
⑥	4	2	1	0	0
⑤	4	2	2	1	0
③	3	2	2	1	1
④	4	1	0	0	1
⑧	3	2	1	0	1
①	3	1	1	0	0
捕	3	1	1	0	0
盗	0	0	0	0	1
失	1	1	0	0	2
併殺	0	0	0	0	0
残	3	1	0	0	1
	43	17	8	2	8

【石巻工】	打	安	点	振	球
⑥	3	1	0	0	1
⑦	3	1	0	0	1
②	3	1	0	0	1
⑧	3	0	0	2	1
⑨	3	0	0	2	1
③	3	2	0	0	1
④	3	1	0	0	1
①	3	1	0	0	1
捕	3	1	0	0	1
盗	0	0	0	0	1
失	1	0	0	1	1
併殺	0	0	0	0	0
残	8	2	4	4	0
	24	10	1	5	8

投	回	打	安	振	球	失
金沢	7	30	4	11	5	1
荒川	2	9	3	1	3	5
阿部剛	2	9	3	4	1	4
三浦	3	10	1	0	1	0

東海大山形15－1大湊

【東海大山形】	打	安	点	振	球
⑧	3	1	4	0	0
⑨	3	0	1	0	1
⑤	3	1	1	0	1
⑧	3	1	0	0	1
⑧	3	2	2	0	1
⑧	3	2	2	0	1
⑦	3	2	2	0	1
⑦	3	2	2	0	1
①	3	0	0	2	0
④	3	1	1	2	0
捕	3	1	1	2	0
盗	0	0	0	0	3
失	5	0	0	0	7
併殺	2	3	1	3	1
残	5	0	0	5	9
	23	13	15	0	9

【大　湊】	打	安	点	振	球
⑨	1	0	0	0	1
⑤	2	0	0	1	0
⑤	2	1	1	1	0
⑧	2	2	2	0	0
①	2	2	2	0	0
⑧	2	0	0	1	0
③	1	0	0	1	0
HR	1	1	1	0	0
HR	1	1	1	0	0
⑨	1	0	0	0	0
捕	1	0	0	0	0
盗	0	0	0	0	0
失	1	1	0	0	1
併殺	0	0	0	0	0
残	4	2	0	2	0
	18	9	6	4	3

投	回	打	安	振	球	失
佐藤	1	0	0	0	1	0
吉野	1	2	0	0	1	0
柳田	1	2	1	1	1	0
七戸	2	2	2	0	0	0
藤崎	2	0	0	1	1	0
谷	1	0	0	0	0	0
濱	1	1	0	0	1	0
伊金	1	0	0	0	0	0
光	1	0	0	0	0	0
橋本	1	0	0	0	0	0
柳田	1	1	1	0	0	0
中	1	1	1	0	0	0
小野	1	0	0	0	0	0
内	2	0	0	0	0	0
金	1	0	0	0	0	0

第64回 高校野球 秋季東北大会

第2日

第64回秋季東北地区高校野球大会第2日は9日、秋田市のこまちスタジアムと八橋球場の2会場で2回戦6試合を行い、青森県勢は第1代表の光星と第3代表の青森山田が、準々決勝進出を決めた。第2代表の大湊は初戦で姿を消した。

光星は北條史也の本塁打などで、石巻工（宮城第2代表）を8－1の七回コールドで退けた。青森山田は延長十二回、1－0で利府（宮城第1代表）にサヨナラ勝ちした。大湊は投手陣が崩れ、東海大山形（山形第2代表）に1－15で五回コールド負けを喫した。

このほか、酒田南（山形第1代表）、聖光学院（福島第1代表）、古川学園（宮城第3代表）が8強入りした。

第3日の10日は、2会場で準々決勝4試合を行う。県勢は、光星が酒田南、青森山田が古川学園と対戦する。あす11日はこまちスタジアムで準決勝が行われ、勝者は来春のセンバツの有力候補となる。

デーリー東北新聞社提供